

「産総研の知財紹介 ―技術移転に向けて―」

産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会では、下記の要領にて講演会を開催致します。今回は、最近のユニークな出願や技術移転可能な産総研の特許(出願)の内容の紹介をさせていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

◆日時:2020年12月18日(金)13:30~16:30 (Teamsの会議開始:13:15~)

◆方法:オンライン開催(Microsoft Teamsによる)

注:参加申込時に御記載のE-mailアドレスに対して、Teamsの招待をします。

Web版Microsoft Teamsで参加可能。無料アプリ版は下記アドレスより入手可能。

インストールしてご参加下さい)

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/download-app>

◆定員:30名

◆対象:名古屋工業技術協会会員及び一般(無料)

■講演会スケジュール:(司会:産総研中部センター イノベーションコーディネーター 吉村 和記)

13:30-「GaNパワースイッチング回路のMHz高周波化と高性能化へ向けた取り組み」

窒化物半導体先進デバイスオープンイノベーションラボトリ

GaNパワーエレクトロニクスチーム

主任研究員 井手 利英

GaN半導体パワーデバイスは高速・高耐圧スイッチングデバイスとして有用である。GaNデバイスを用いるとMHzを超えるスイッチング周波数での電力変換回路が可能となるが、その一方でノイズ対策や高効率化、磁性材料の不足など様々な問題を抱えている。ここではACアダプタ用途、ワイヤレス給電用途などを想定したMHz電力変換回路において、産総研で創出した技術による問題解決への取り組みを紹介する。

14:00-「優れた強度と延性のバランスを有する難燃性マグネシウム合金展伸材の開発」

マルチマテリアル研究部門 軽量金属設計グループ

研究グループ長 千野 靖正

汎用マグネシウム合金(Mg-Al合金)にカルシウムを添加した「難燃性マグネシウム合金」は著しく高い難燃特性を有するため、高い安全性が必要とされる鉄道車両構体等の輸送機器への適用が検討されつつある。本講演では、難燃性マグネシウム合金の代表的な特性を紹介するとともに、難燃性マグネシウム合金展伸材の強度と延性のバランスを改善するための研究開発や、開発した合金を高速車両構体に適用するための研究開発について紹介を行う。

14:30-「規則性メソポーラス材料の表面特性の設計と機能付与」

極限機能材料研究部門 ナノポーラス材料グループ

研究グループ長 木村 辰雄

高比表面積を示す多孔質材料の一つであるメソポーラス材料の応用可能性の拡大には、多様な表面特性を設計することが重要になります。種々の組成でメソポーラス材料を合成すれば、表面特性は変化しますが、材料組成に依存した応用展開しか期待できません。本講演では、有機架橋ホスホン酸化合物と金属源との反応を利用した独自の組成設計技術について、無機組成に依存する表面特性の設計とその近傍での有機官能基に由来する機能付与の同時実現の可能性を紹介しします。

15:00- 休憩

15:15ー「固体潜熱型蓄熱材料のバルク化と熱伝導率制御」

磁性粉末冶金研究センター エントロピクス材料チーム 主任研究員 杵鞭 義明

固体中の電子・スピンによる相変化を利用した潜熱蓄熱材料について、難焼結性を解決した堅牢なバルク作製およびその熱伝導率を改善した結果について説明し、用途先の展望を概説する。

15:45ー「産総研の技術移転について」

イノベーション推進本部 知的財産部 技術移転マネージャー 倉西 敏行

産総研は、日本の産業や社会に役立つ技術の創出とその実用化を推進するため、革新的な技術シーズを事業化に繋げるための「橋渡し」の取り組みを強化しています。研究成果を事業化につなげる方策は、(1)既存企業への知的財産等のライセンスによる技術移転、(2)技術移転ベンチャーの創業による事業化、があります。今回は実際に企業の皆様に産総研の持つ研究成果を事業に活用していただくための技術移転の様々な手続きについて紹介します。

16:10ー チャットによる討論 (16:30 終了)